

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 1学期

係を工夫しよう (1時間)			
ねらい	学級の仕事を全員で分担して取り組むよさや必要性を基に、学級に必要な係について根拠を明らかにして話し合い、係活動とその仕事内容を集団決定するとともに、毎日の係活動に取り組むことによって、全員で分担、協力して仕事に取り組む充実感を味わう。		
評価規準	(①知・技) 学級に必要な係について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 学級に必要な係についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、学級に必要な係について話し合ったり係の仕事を行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、5年生のときの学級の係を掲示する。	
本時	○学級の仕事を全員で分担して取り組むよさや必要性を知る。 ○学級に必要な係について根拠を明らかにして話し合う。 ○自分に取り組んでいく係を決め、係ごとに相談してめあてを決めたり、活動の計画を立てたりする。	○話し合いへの意欲を高められるように、学級の仕事を全員で分担して取り組むよさや必要性について助言する。 ○係活動としてふさわしい係を考えられるように、当番活動との違いを助言する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の活動に向けて励ましたりする。	◇学級に必要な係を提案したり、活動の計画を立てたりしている。 <発言・ポスター①②③>
事後	○めあてや計画に基づいて実行する。	○実践の充実感を味わえるように、帰りの会等で、それぞれの係の取組を紹介する。	
【備考】 ・係ごとにポスターを作り、掲示する。			

委員会組織をつくろう (1時間)			
ねらい	学校の仕事を全員で分担して取り組むよさや必要性を基に、担当する委員会について根拠を明らかにして話し合い、担当する委員会を集団決定するとともに、委員会活動に責任をもって取り組むことによって、最上級生として学校の仕事を分担し、協力して取り組む充実感を味わう。		
評価規準	(①知・技) 担当する委員会について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 担当する委員会を決めることについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、担当する委員会について話し合ったり委員会活動に責任をもって取り組んだりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題について自分なりの考えをもてるように、委員会活動の取組を伝え合う場を設定する。	
本時	○担当する委員会について、根拠を明らかにして話し合う。 ○学級の委員会組織を決める。	○一人一人が根拠をもって話し合えるように、「学校の役に立つ」「工夫できる」等の話し合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇根拠とともに担当する委員会を発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○委員会活動の充実のために、工夫したことや実行したことを振り返る。	○実践の充実感を感じられるように、実践後に成果を伝え合う時間を設定する。	
【備考】			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 1学期

学級活動の計画をつくろう (1時間)		
ねらい	計画委員会を中心に組織的に課題を解決していくことのよさを基に、計画委員会ごとに取り組む議題について根拠を明らかにして話し合い、担当する議題を集団決定するとともに、役割を分担し合って協力して取り組むことによって、自分たちで生活をよりよくする充実感を味わう。	
評価規準	(①知・技) 担当する議題について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 担当する議題を決めることについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、担当する議題について話し合ったり自分の役割を行ったりしようとしている。	
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題について自分なりの考えをもてるように、6年生での計画委員会の意義を伝える。
本時	○話し合いへの意欲を高められるように、計画委員会を中心に組織的に課題を解決していくことのよさを助言する。 ○取り組みたい議題が考えられるように、後期に行う議題のおよその内容がわかる資料を提示する。 ○実践への意欲が高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の活動に向けて励ましたりする。	◇根拠とともに担当したい議題を発言したり、計画を立てたりしている。 <発言・学級活動計画書①②③>
事後	○計画委員会ごとに学級活動計画書を作成する。	○実践の充実感を感じられるように、実践後に成果を伝え合う時間を設定する。
【備考】 ・学級活動計画書を準備しておく。		

学級目標のようなクラスをつくろう (1時間)		
ねらい	自分たちが目指す学級の姿に近づく活動をつくるよさや必要性を基に、学級全体で取り組んでいくことについて根拠を明らかにして話し合い、具体的な行動目標を集団決定するとともに、役割を分担し合い協力して取り組むことによって、学級の生活を向上させる充実感を味わう。	
評価規準	(①知・技) 学級全体で取り組んでいくことについて相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 自分たちが目指す学級の姿に近づくことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、学級全体で取り組んでいくことについて話し合ったり決めたことを行ったりしようとしている。	
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、学級目標を提示する。
本時	○話し合いへの意欲を高められるように、学級目標の意義について助言する。 ○具体的な取組を考えられるように、具体的な学校生活の場面を基に学級目標を達成している最上級生らしい姿を考えるよう助言する。 ○実践への意欲が高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の取組に向けて励ましたりする。	◇学級目標を具現化することや、日常的・継続的に自分たちでできること等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○学級目標を基に、目指す学級づくりを実行する。	○実践の充実感を味わえるように、決定した行動目標の達成具合を可視化して掲示する。
【備考】		

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 1学期

1年生に給食や清掃の仕方を教えよう (1時間)		
ねらい	1年生が安心して生活できるよう支援することのよさや必要性を基に、給食時や清掃時に必要な支援について根拠を明らかにして話し合い、支援する内容や分担を集団決定するとともに、年度初めに取り組むことによって、最上級生として下級生に信頼される充実感を味わう。	
評価規準	(①知・技) 1年生の給食時や清掃時に必要な支援について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 1年生の給食時や清掃時に必要な支援についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、1年生の給食時や清掃時に必要な支援について話し合ったり1年生に優しく支援したりしようとしている。	
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、1年生の実態について、1学年の先生にインタビューする機会を設定する。
本時	○1年生が安心して生活できるよう支援することのよさや必要性を知る。 ○最上級生としての立場や役割を基に、1年生が早く学校生活に慣れるための給食時や清掃時に必要な支援の内容や分担について根拠を明らかにして話し合う。 ○一人一人の考えが反映されるように学級で取り組んでいくことを決める。	○問題意識を高められるように、1年生は初めての学校生活に対する不安もあるため最上級生が支援する必要があることを助言する。 ○具体的な取組が考えられるように、1年生にとって難しいことを助言する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の取組に向けて励ましたりする。
事後	○年度初めに1年生の教室で給食時や清掃時の支援をする。	○実践の充実感を味わえるように、帰りの会等で実践の成果や課題を話し合う時間を設定する。
【備考】 ・年度初めの給食時や清掃時の6年生の支援について、1学年部と日程や人数を相談しておく。		

「ともに分かる」クラスにしよう (1時間)		
ねらい	「ともに分かる」クラスにすることで互いに高め合うことができるよさを基に、「ともに分かる」クラスにするために必要なことを根拠を明らかにして話し合い、みんなで実行していくことを集団決定するとともに、学級全体で協力して取り組むことによって、自分たちで生活をよりよくする充実感を味わう。	
評価規準	(①知・技) 「ともに分かる」クラスにするために必要なことについて相手の思いを受け止めて聞いたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 「ともに分かる」クラスにするために必要なことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、「ともに分かる」クラスにするために必要なことについて話し合ったり決めたことを行ったりしようとしている。	
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題について自分なりの考えをもてるように、「ともに分かろう」の掲示の内容を確認する時間を設定する。
本時	○「ともに分かる」クラスにしていくことのよさを知る。 ○「ともに分かる」クラスにしていくためにみんなで取り組んでいくことについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○学級全体で取り組むことを決める。	○話し合いへの意欲を高められるように、「ともに分かる」クラスにしていくことのよさを助言する。 ○取り組むことを具体的に考えられるように、「ともに分かろう」の振り返りの項目を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。
事後	○決定したことを学級全体で実行する。	○実践の充実感を感じられるように、実践後に成果を伝え合う時間を設定する。
【備考】		

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 1学期

学級ミニコンサートをしよう		(2時間)	
ねらい	個人やグループの音楽発表によって一人一人のよさが出る楽しさを基に、一人一人のよさを生かす集会の内容について根拠を明らかにして話し合い、よりよい集会の内容を集団決定するとともに、役割を分担し合い協力して集会を行うことによって、一人一人のよさを生かした活動をつくる楽しさを味わう。		
評価規準	(①知・技) 一人一人のよさを生かす集会の内容について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 一人一人のよさを生かす集会の内容についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、一人一人のよさを生かす集会の内容について話し合ったり学級ミニコンサートに参加したりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、昨年度の学級ミニコンサートの写真を掲示する。	
第1時	○個人やグループの音楽発表によって一人一人のよさが出ることを知る。 ○意識調査の結果を基に一人一人のよさを生かす集会の内容について、根拠を明らかにして話し合う。 ○集会の内容や役割分担を集団決定する。	○話し合いへの意欲を高められるように、音楽発表で選ぶ曲や楽器によって一人一人のよさが出ることを助言する。 ○具体的な集会の内容を考えられるように、多くの友達のよさを生かせるような内容かの是非について助言する。 ○第2時への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の取組に向けて励ましたりする。	◇友達のよさを生かせることやみんなができること等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
第2時	○計画を基に楽しく集会をする。 ○一人一人のよさが発揮されたことを発表し合う。	○集会に積極的に参加できるように、集会のめあてやルール等について確認する。 ○日常生活に生かそうという意欲をもてるように、一人一人のよさが発揮されたことや計画通りに集会が進められたことを称賛する。	◇決定したことを基に、みんなで協力して、よさを生かしながら楽しく集会をしている。 <行動③>
事後	○計画委員会を中心に、活動のよさを振り返る。	○実践の充実感を味わえるように、振り返りの内容を通信等で紹介する。	
【備考】			

危険から身を守ろう		5月(1時間)	
ねらい	校外において犯罪の被害に遭う危険があることを理解し、犯罪の被害に遭わない方法や危険に出遭ったときの対処の仕方について根拠を明らかにして話し合い、自分に合った取組を決定するとともに、一人一人が実行し、自ら身を守り、安全な生活を送る。		
評価規準	(①知・技) 校外において犯罪の被害に遭う危険があることを理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 犯罪の被害に遭わない方法や危険に出遭ったときの対処の仕方についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、犯罪の被害に遭わない方法や危険に出遭ったときの対処の仕方について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、小学生で遭遇し得る犯罪や危険について資料を掲示する。	
本時	○校外において犯罪の被害に遭う危険があることを知る。 ○犯罪の被害に遭わない工夫や危険に出遭った時の対処の仕方について根拠を明らかにして話し合う。 ○話し合ったことを基に、自分が積極的に取り組んでいくことを決める。	○問題意識を高められるように、学校付近で登下校中にあった実際の不審者情報を伝える。 ○よりよい方法について具体的に話し合えるように、子どもだけの場面で危険が増すことを伝え、自ら身を守ることの必要性について助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりの方法が決められた子どもを称賛する。	◇犯罪の被害に遭わない方法や危険に出遭ったときの対処の仕方について、発言したり記述している。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○決めたことを意識して、安全な生活を送る。	○実践への意欲を継続できるように、小学生に関わる事件や事故等について、帰りの会などで紹介する。	
【備考】			

互いに高め合える友達になろう		6月(1時間)	
ねらい	友達に対してよくないと感じたことも伝える大切さを理解し、友達と互いに高め合えるように接する方法について根拠を明らかにして話し合い、自分に合った方法を決定するとともに、一人一人が実行し、互いに認め合い、高め合いながら生活を送る。		
評価規準	(①知・技) 友達に対してよくないと感じたことも伝える大切さを理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 友達と互いに高め合えるように接する方法についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、友達と互いに高め合えるように接する方法について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知り、友達の言動がよくないと感じたときの対応についての意識調査を行う。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、友達との接し方についてのアンケートを行う。	
本時	○友達と互いに高め合うために、友達に対してよくないと感じたことも伝える大切さを知る。 ○互いに高め合えるように、友達とどのように接していけばよいのか、根拠を明らかにして話し合う。 ○互いに高め合えるような自分なりの接し方を決める。	○問題意識を高められるように、意識調査の結果を提示する。 ○よりよい方法について具体的に話し合えるように、相手にはっきりと指摘して気まづくなってしまうことを考え、黙ってそのままにしてしまうことが多いことについての助言をする。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりの方法が決められた子どもを称賛する。	◇友達と互いに高め合えること、自分に合っていること等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○自分が決めたことを実行し、それぞれが振り返る。		
【備考】			

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 1学期

6年生になって		4月(1時間)
ねらい	自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、6年生になって頑張っていきたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分のめあてを決定するとともに、一人一人が実行し、最上級生として自らを向上させながら生活する。	
評価規準	(①知・技) 自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 6年生になって頑張っていきたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、6年生になって頑張っていきたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。	
	活動内容	指導上の留意点
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、6年生の生活への期待や不安に関するアンケートを行う。
本時	○学校のリーダーとしての立場や役割を話し合い、自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を知る。 ○学校のリーダーとしての立場や役割を基に、1学期に頑張りたいことについて根拠を明らかにして話し合う。 ○これからの自分の努力点を考えて、1学期のめあてを決め、カードに書く。	○問題意識を高められるように、最上級生の立場や役割について助言する。 ○めあての具現化に向けて具体的な活動が考えられるように、1学期の活動の概要や最上級生ならではの生活について助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあてが考えられた子どもを称賛する。
事後	○めあての達成に向けて生活をする。	○今後の生活の仕方を意識できるよう、月ごとに「学校生活の振り返り」を行う時間を設定する。
【備考】 ・めあてカードを準備しておく。 ・「学校生活の振り返り」のプリントを準備しておく。		

最上級生としての役割を果たそう		6月(1時間)
ねらい	最上級生の大切さを理解し、6年生としてよりよく役割を果たす方法について話し合い、自分に合った取組を決定するとともに、一人一人が実行し、学校のリーダーとして自らを向上させながら生活する。	
評価規準	(①知・技) 最上級生の大切さを理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 6年生としてよりよく役割を果たす方法についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、6年生としてよりよく役割を果たす方法について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。	
	活動内容	指導上の留意点
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、学校のリーダーとしての現在の取組状況に関するアンケートを行う。
本時	○振り返りを基に、今までの取組の成果や課題を確認する。 ○6年生としてよりよく役割を果たす方法について根拠を明らかにして話し合う。 ○これからの自分の取組を決める。	○問題意識を高められるように、旗グループ等での活躍を評価する。 ○具体的に頑張っていきたいことを考えられるように、学校のリーダーとしての立場や役割を果たしにくい原因について助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあてが決められた子どもを称賛する。
事後	○定期的に自分の実行の様子を振り返る。	○今後の生活の仕方を意識できるよう、学期ごとに「おはよう活動の振り返り」を行う時間を設定する。
【備考】		

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 1学期

1学期を振り返ろう		7月(1時間)	
ねらい	自分の生活を向上させてきたことのよさを基に、学期始めに立てためあての達成度について根拠を明らかにして話し合い、成果や課題を自覚するとともに、努力したことを続けたり、新たに発見した課題に取り組んだりする。		
評価規準	(①知・技) 自分の生活を向上させてきたことのよさを理解し、自分のめあてと照らしながら、1学期の生活を振り返っている。 (②思・判・表) 1学期の生活の成果や課題を見だし、これからの自分の生活に必要なことを自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、1学期の成果や課題について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、月ごとに記入した「学校生活の振り返り」を提示する。	
本時	○めあての達成度について発表し合い、自分の生活を向上させてきたことのよさを知る。 ○学期始めに立てためあての達成度について、根拠を明らかにして話し合う。 ○1学期の振り返りをカードに書く。	○問題意識を高められるように、自分の生活を向上させることにつながった具体的なよい姿を提示する。 ○1学期に努力した成果や課題を自覚できるように、具体的な学校生活の場面を基に考えるよう助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分の成果や課題を基にこれからの自分の生活に必要なことを記述している児童を称賛したり励ましたりする。	
事後	○自分の振り返りに基づいて生活する。	○振り返ったことを今後の生活に生かせるよう、振り返りを意識して生活している児童を称賛する。	
【備考】 ・通知表を配付する。			

夏休みの計画を立てよう		7月(1時間)	
ねらい	夏休みを計画的に過ごすことのよさや必要性を理解し、夏休みに頑張りたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分に合っためあてを決定するとともに一人一人が実行し、充実した夏休みを送る。		
評価規準	(①知・技) 夏休みを計画的に過ごすことのよさや必要性を理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 夏休みに頑張りたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、夏休みに頑張りたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材について自分なりの考えをもてるように、1学期の生活を振り返る時間を設定する。	
本時	○5年生の時の夏休みの反省や今の課題を発表し合い、めあてをもって夏休みを過ごすことの大切さを知る。 ○1学期の自分の成果や課題等を基に、夏休みのめあてを学習面、生活面から根拠を明らかにして話し合う。 ○夏休みのめあてを決め、「〇〇の夏休み」に書く。	○問題意識を高められるように、めあてをもって夏休みを過ごすことの大切さについて助言する。 ○夏休みにふさわしいめあてを考えられるように、夏休みだからこそできること等について助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあてが決められた子どもを称賛する。	
事後	○めあてに基づいて夏休みを過ごし、自己評価する。	○今後の生活の仕方を意識できるように、夏休み明けに実践の成果や課題を伝え合う時間を設定する。	
【備考】 ・「〇〇の夏休み」を準備しておく。 ・夏休みの宿題を配付する。			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 2学期

係を工夫しよう		8・9月 (1時間)	
ねらい	1学期の成果を踏まえ、学級の係活動を見直していくよさや必要性から、2学期に必要な係について根拠を明らかにして話し合い、係活動とその仕事内容を集団決定するとともに、毎日の係活動に取り組むことによって、学級生活を自分たちでよりよくする充実感を味わう。		
評価 規準	(①知・技) 2学期に必要な係について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 2学期に必要な係についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、2学期に必要な係について話し合ったり係の仕事を行ったりしようとしている。		
活動内容		指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、1学期の係を提示する。	
本時	○1学期の成果を踏まえ、学級の係活動を見直して取り組んでいくよさや必要性を知る。 ○1学期の活動を基に、2学期に必要な係について根拠を明らかにして話し合い、自分の取り組みたい係を決める。 ○係ごとに話し合い、めあてを決めたり、活動の計画を立てたりする。	○話し合いへの意欲を高められるように、学級の係活動を見直して取り組んでいくよさや必要性を助言する。 ○係活動にふさわしい係を考えられるように、2学期を見通して、活動に幅ができるような係編制になるよう助言する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇2学期に必要な係を発言したり、活動の計画を立てたりしている。 <発言・ポスター①②③>
事後	○めあてや計画に基づいて実行する。	○実践の充実感を味わえるように、帰りの会等で、それぞれの係の取組を紹介する。	
【備考】 ・係ごとにポスターを作り、掲示する。			

学級活動の計画をつくろう		8・9月 (1時間)	
ねらい	計画委員会を中心に組織的に課題を解決していくことのよさを基に、計画委員会ごとに取り組む議題について根拠を明らかにして話し合い、担当する議題を集団決定するとともに、役割を分担し合って協力して取り組むことによって、自分たちで生活をよりよくする充実感を味わう。		
評価 規準	(①知・技) 担当する議題について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 担当する議題を決めることについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、担当する議題について話し合ったり自分の役割を行ったりしようとしている。		
活動内容		指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題について自分なりの考えをもてるように、6年生での計画委員会の意義を伝える。	
本時	○計画委員会を中心に組織的に課題を解決していくことのよさを知る。 ○提示された資料を基に、計画委員会ごとに根拠を明らかにして話し合う。 ○担当する題材の調整を行い、活動のめあてや役割分担等を決める。	○話し合いへの意欲を高められるように、計画委員会を中心に組織的に課題を解決していくことのよさを助言する。 ○取り組みたい議題が考えられるように、後期に行う議題のおよその内容がわかる資料を提示する。 ○実践への意欲が高められるように、話し合いの様子を称賛したり今後の活動に向けて励ましたりする。	◇根拠とともに担当したい議題を発言したり、計画を立てたりしている。 <発言・学級活動計画書①②③>
事後	○計画委員会ごとに学級活動計画書を作成する。	○実践の充実感を感じられるように、実践後に成果を伝え合う時間を設定する。	
【備考】 ・学級活動計画書を準備しておく。			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 2学期

運動会に向けて		8・9月(1時間)	
ねらい	運動会が近付き、最上級生として役割を果たしながら取り組むよさや必要性を基に、運動会に向けた学級の取組について根拠を明らかにして話し合い、取り組むことを集団決定するとともに、協力して行うことによって、学校のリーダーとして運動会を頑張った充実感を味わう。		
評価基準	(①知・技) 運動会に向けた学級の取組について相手の思いを受け止めて聞いたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 運動会に向けた学級の取組についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、運動会に向けた学級の取組について話し合ったり決めたことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、昨年度の6年生の運動会で競技している写真や応援している写真を掲示する。	
本時	○最上級生として役割を果たしながら取り組むよさや必要性を知る。 ○小学校最後の運動会に向けて、学級のめあてや練習内容、応援団編成等について、根拠を明らかにして話し合う。 ○運動会に向けての学級の取組を決める。	○話し合いへの意欲を高められるように、最上級生として役割を果たしながら取り組むよさや必要性を助言する。 ○学校全体を視野に入れた具体的な取組が考えられるように、達成可能かどうか助言する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇団のリーダーとして適切である、みんなで協力できる等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○決まったことをポスター等で掲示し、運動会に向けて実行していく。	○実践の充実感を味わえるように、帰りの会などの中で自分の取組を振り返る時間を設定する。	
【備考】 ・学校行事の全体練習や応援練習との関連を図り、適切な時期に行う。			

教生の先生とのお別れ会をしよう		8・9月(2時間)	
ねらい	実習生に感謝の気持ちを伝えるよさを基に、実習生とのお別れ会の内容について根拠を明らかにして話し合い、よりよい集会の内容を集団決定するとともに、役割を分担し合って協力して集会を行うことによって、教生の先生に感謝の気持ちを伝える集会の充実感を味わう。		
評価基準	(①知・技) 実習生とのお別れ会の内容について相手の思いを受け止めて聞いたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 実習生とのお別れ会の内容についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、実習生とのお別れ会の内容について話し合ったりお別れ会に参加したりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、お別れ会の内容についてのアンケートを行い、その結果を掲示する。	
第1時	○実習生との思い出を話し合い、感謝の気持ちを伝えるよさを知る。 ○お別れ会の内容について、根拠を明らかにして話し合う。 ○集会の内容や役割分担を決める	○話し合いへの意欲を高められるように、実習生の立場からお別れ会を行うことのよさについて助言する。 ○具体的な内容を考えられるように、「感謝の気持ちが伝わること」という視点を提示する。 ○第2時への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇実習生に対して感謝の気持ちを伝える等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
第2時	○決定したことを基に、進行案に沿って、お別れ会をする。 ○集会の様子を振り返り、発表し合う。	○集会に積極的に参加できるように、集会のめあてやルール等について確認するよう促す。 ○日常生活に生かそうという意欲をもてるように、実習生に感謝の気持ちを表せたことを称賛する。	◇決定したことを基に、みんなで協力して、実習生に感謝を表しながら楽しくお別れ会をしている。 <行動③>
事後	○お別れ会を振り返り、感想を発表し合う。	○実践の充実感を味わえるように、実習生の感想を掲示する。	
【備考】			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 2学期

旗グループの活動を工夫しよう		10月(1時間)	
ねらい	旗グループの活動をよりよいものに改善していくよさを基に、旗グループの活動を充実させる方法について根拠を明らかにして話し合い、各旗グループでの取組を集団決定するとともに、旗グループの活動に工夫して取り組むことによって、最上級生として旗グループのみんなが楽しめるように取り組む充実感を味わう。		
評価基準	(①知・技) 旗グループの活動を充実させる方法について相手の思いを受け止めて聞いたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 旗グループの活動を充実させる方法についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、旗グループの活動を充実させる方法について話し合ったり旗グループの活動を工夫して取り組んだりしようとしている。		
	活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、各旗グループの活動状況についてアンケートを行い、結果を掲示する。	
本時	○旗グループの活動をよりよいものに改善していくよさを知る。 ○取り組みたい活動や工夫したいことについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○旗グループの活動で取り組んでいくことを集団決定する。	○話し合いへの意欲を高められるように、旗グループの活動をよりよいものに改善していくよさを助言する。 ○おはよう活動としてふさわしい活動内容や工夫を考えられるように、1学期の活動を紹介する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇旗グループの活動としてふさわしい活動内容や新しく工夫したいことを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○計画に基づいて実行する。	○実践の充実感を味わえるように、旗グループ毎に活動の成果と課題を話し合う時間を設定する。	
【備考】			

学級文化祭をしよう		11月(2時間)	
ねらい	個人やグループの学芸的内容の発表によって一人一人のよさが出る楽しさを基に、一人一人のよさを生かす集会の内容について根拠を明らかにして話し合い、よりよい集会の内容を集団決定するとともに、役割を分担し合って協力して集会を行うことによって、一人一人のよさを生かした活動をつくる楽しさを味わう。		
評価基準	(①知・技) 一人一人のよさを生かす集会内容について相手の思いを受け止めて聞いたり相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 一人一人のよさを生かす集会の内容についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、一人一人のよさを生かす集会の内容について話し合ったりお別れ会に参加したりしようとしている。		
	活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、前年度の6年生の集会の写真を掲示する。	
第1時	○個人やグループで学芸的内容を発表するよさを知る。 ○一人一人のよさを生かすことを目的とした集会の内容について、根拠を明らかにして話し合う。 ○集会の内容や役割分担を集団決定する。	○話し合いへの意欲を高められるように、発表によって一人一人のよさが分かることを助言する。 ○具体的な方法が考えられるように、各教科等で学んだことを生かした発表を促す。 ○第2時への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇一人一人のよさを生かせる、みんなができる等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
第2時	○計画を基に楽しく集会をする。 ○一人一人のよさが発揮されたことを発表し合う。	○集会に積極的に参加できるように、集会のめあてやルール等について確認する。 ○日常生活に生かそうという意欲をもてるように、一人一人のよさが発揮されたことなどを称賛する。	◇決定したことを基に、みんなで協力して、一人一人のよさを生かしながら楽しく集会をしている。 <行動③>
事後	○計画委員会を中心に、活動のよさを振り返る。	○実践の充実感を味わえるように、集会の感想を通信等に掲載する。	
【備考】			

学級活動 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 6年 2学期

元気な体に必要な食事(学校栄養士とのTT)		10月(1時間)	
ねらい	食生活の乱れや偏りによる生活習慣病について知り、食事の内容や摂り方について根拠を明らかにして話し合い、自分に合った方法を決定するとともに、一人一人が実行し、食生活をさらに充実させる。		
評価 規準	(①知・技) 食生活の乱れや偏りによる生活習慣病について知り、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 食事の内容や摂り方についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、食事の内容や摂り方について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
	活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、食事に関わって体調不良になった経験を問いかける。	
本時	○食生活の乱れや偏りによって、病気になることを知る。 ○食事の内容や摂り方について根拠を明らかにして話し合う。 ○自分に取り組むことを決定する。	○問題意識を高められるように、日本人の死因の半数が生活習慣病であることを示したグラフを提示する。 ○具体的な方法について考えられるように、生活習慣病の原因についての資料を提示し、学校栄養士が助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりの工夫が決められた子どもを称賛する。	◇糖分や脂肪分、塩分を摂り過ぎないようにすることの大切さについて発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○摂取過多や不足に気を付けた食事をする。	○実践への意欲を継続できるように、決めたことを実践しているかどうか振り返る機会を帰りの会等に設定する。	
【備考】 ・学校栄養士と連絡を取り合い指導を進める。授業もTTで行う。 ・関連-体育「病気の予防」			

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 2学期

2学期のめあてをつくろう		8月(1時間)	
ねらい	自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、2学期になって頑張っていきたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分のめあてを決定するとともに、一人一人が実行し、最上級生として自らを向上させながら生活する。		
評価規準	(①知・技) 自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 2学期に頑張ってきたことについて話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、2学期に頑張っていきたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
	活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、2学期の学習や生活の大まかな流れを掲示する。	
本時	○2学期の学習や生活の概要をつかみ、見通しをもつ。 ○自分の課題を明確にした2学期のめあてについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○自分のめあてをカードに書く。	○問題意識を高められるように、1学期のめあてに向かって頑張った子どもを紹介する。 ○具体的なめあてを考えられるように、2学期の学習や生活と自分の課題を関連させた、無理のないめあてになるよう助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあてが考えられた子どもを称賛する。	◇2学期に頑張りたいことを発言したり、めあてを記述したりしている。 <発言・めあてカード①②③>
事後	○めあてを掲示し、めあてに向けて努力する。	○今後の生活の仕方を意識できるよう、月ごとに「学校生活の振り返り」を行う時間を設定する。	
【備考】 ・めあてカードを準備しておく。 ・「学校生活の振り返り」のプリントを準備する。			

自分の将来に向けて		10月(2時間)	
ねらい	将来就きたい職業に向けて努力することの大切さを知り、自分の将来に向けての可能性を広げるために必要なことについて、根拠を明らかにして話し合い、自分に合った取組を決定するとともに、自分の将来の希望や目標に向かって、今できることについて前向きに努力する。		
評価規準	(①知・技) 将来就きたい職業に向けて努力することの大切さを知り、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 自分の将来に向けての可能性を広げるために必要なことについての課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、自分の将来に向けての可能性を広げるために必要なことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
	活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、将来就きたい職業や、そのために自分が努力していることについてのアンケートを行う。	
第1時	○将来就きたい職業に向けて努力することの大切さをインターネット資料を基に、調べたことを基に、その職業に就くまでの過程とめたり、「今付けておきたい力」について考えたりする。	○問題意識を高められるように、将来就きたい職業に向けて努力することの大切さを助言する。 ○調べられるように、就きたい職業を調査しておき、その職業の適性や就くまでの進路等が調べられる資料を準備する。 ○第2時への意欲を高められるように、自分なりの「今付けておきたい力」が考えられた子どもを称賛する。	◇将来就きたい職業に向けて自分が「今付けておきたい力」を発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
第2時	○将来就きたい職業に向けて、「今付けておきたい力」について根拠を明らかにして話し合う。 ○「今付けておきたい力」と今の学習・生活の内容とを結び付け、自分の将来に向けて取り組むことを決める。	○具体的な力が考えられるように、学習面や生活面などに目を向けるよう促す。 ○実践への意欲を高められるように、互いの夢や希望を認め合えるよう助言する。	◇継続的に取り組める、自分に合っている等の観点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○自分の将来の夢や希望に向かって、今できることについて前向きに努力する。	○今後の生活の仕方を意識できるよう、決めたこと取組を振り返る機会を帰りの会等で設定する。	
【備考】 : 校内又は校外の人材を活用し、自分の将来に向けて頑張った経験を話してもらえるとよい。 : 第1時と第2時の間に、家の人に職業に関するインタビューをしたり、休み時間等を利用してメディアルームを活用したりしていけるとよい			

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 2学期

2学期を振り返ろう		12月(1時間)	
ねらい	自分の生活を向上させてきたことのよさを基に、学期始めに立てためあての達成度について根拠を明らかにして話し合い、成果や課題を自覚するとともに、努力したことを続けたり、新たに発見した課題に取り組んだりする。		
評価規準	(①知・技) 自分の生活を向上させてきたことのよさを理解し、自分のめあてと照らしながら、2学期の生活を振り返っている。 (②思・判・表) 2学期の生活の成果や課題を見だし、これからの自分の生活に必要なことを自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、2学期の成果や課題について話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、月ごとに記入した「学校生活の振り返り」を提示する。	
本時	○めあての達成度について発表し合い、自分の生活を向上させてきたことのよさを知る。 ○学期始めに立てためあての達成度について、根拠を明らかにして話し合う。 ○2学期の振り返りをカードに書く。	○問題意識を高められるように、自分の生活を向上させることにつながった具体的なよい姿を提示する。 ○2学期に努力した成果や課題を自覚できるように、具体的な学校生活の場面を基に考えるよう助言する。 ○実践への意欲を高められるように、自分の成果や課題を基にこれからの自分の生活に必要なことを記述している児童を称賛したり励ましたりする。	
事後	○自分の振り返りに基づいて生活する。	○振り返ったことを今後の生活に生かせるよう、振り返りを意識して生活している児童を称賛する。	
【備考】 ・通知表を配付する。			

冬休みの計画を立てよう		12月(1時間)	
ねらい	めあてをもって冬休みを過ごすことのよさを知り、冬休みに頑張りたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分に合っためあてを決定するとともに、一人一人が実行し、楽しい冬休みを送る。		
評価規準	(①知・技) めあてをもって冬休みを過ごすことのよさを知り、冬休みに頑張りたいことについて自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 冬休みに頑張りたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、冬休みに頑張りたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材について自分なりの考えをもてるように、冬休み中の行事や期間を伝える。	
本時	○2学期のめあてを振り返り、めあてをもって冬休みを過ごすことのよさを知る。 ○冬休みのめあてを学習面、生活面から根拠を明らかにして話し合う。 ○自分のめあてを決め、「○○の冬休み」に記入する。	○問題意識を高められるように、冬休みの過ごし方のよい例や悪い例を紹介する。 ○一人一人が根拠をもって話し合えるように、「冬休み に合っている」等の話し合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあて を考えられた子どもを称賛したり、励ましたりする。	
事後	○計画に基づいて冬休みを過ごし、自己評価する。	○今後の生活の仕方を意識できるように、冬休み明けに実践の成果や課題を伝え合う時間を設定する。	
【備考】 ・「○○の冬休み」を用意しておく。 ・冬休みの宿題を配付する。			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 3学期

係を工夫しよう		(1時間)	
ねらい	これまでの成果を踏まえ、学級の係活動を見直して取り組んでいくよさや必要性を基に、3学期に必要な係について根拠を明らかにして話し合い、係活動とその仕事内容を集団決定するとともに、毎日の係活動に取り組むことによって、学級生活を自分たちでよりよくする充実感を味わう。		
評価規準	(①知・技) 3学期に必要な係について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 3学期に必要な係についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、3学期に必要な係について話し合ったり係の仕事を行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、2学期の係を提示する。	
本時	○3学期に必要な係について根拠を明らかにして話し合う。 ○係ごとに話し合い、めあてを決めたり、活動の計画を立てたりする。	○一人一人が根拠を明らかにして話し合えるように、「学級の役に立つ」「自分たちでできる」等の話し合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇3学期に必要な係を発言したり、係活動の計画を立てたりしている。 <発言・ポスター①②③>
事後	○めあてや計画に基づいて実行する。	○実践の充実感を味わえるように、帰りの会等で、それぞれの係の取組を紹介する。	
【備考】 ・係ごとにポスターを作り、掲示する。			

感謝の集会に向けて		(1時間)	
ねらい	小学校生活を支えてくれた家族への思いを基に、「感謝の集会」の内容について、根拠を明らかにして話し合い、よりよい集会の内容を集団決定するとともに、役割を分担、協力して集会を行うことによって、6年間の小学校生活を送れたことへの感謝の気持ちを深めながら生活する。		
評価規準	(①知・技) 「感謝の集会」の内容について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 「感謝の集会」の内容についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、「感謝の集会」の内容について話し合ったり「感謝の集会」に参加したりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、集会の内容についてのアンケートを行い、その結果を掲示する。	
本時	○感謝の気持ちを表すことを目的とした集会の内容について、根拠を明らかにして話し合う。 ○集会の内容や分担を決める。	○一人一人が根拠を明らかにして話し合えるように、「感謝の気持ちを表せる」「みんなでできる」等の話し合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。	◇話し合いの視点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○卒業までの残りの期間を大切に生活する。	○実践の充実感を味わえるように、子どもや保護者の感想を通信等に掲載する。	
【備考】			

学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 6年 3学期

お別れ会をしよう		(2時間)
ねらい	小学校生活を終えるにあたって、それぞれの思いを表す楽しさを基に、一人一人のよさを生かせる集会の内容について根拠を明らかにして話し合い、よりよい集会の内容を集団決定するとともに、役割を分担し、協力して集会を行うことによって、6年間の小学校生活を送ってきたことへの充実感を味わう。	
評価 規準	(①知・技) 一人一人のよさを生かせる集会の内容について相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の立場や考え方を理解したりして、合意形成して実践することのよさを理解している。 (②思・判・表) 一人一人のよさを生かせる集会の内容についての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、一人一人のよさを生かせる集会の内容について話し合ったりお別れ会に参加したりしようとしている。	
	活動内容	指導上の留意点
事前	○本時に話し合う議題を知る。	○本時の議題についての問題意識をもてるように、小学校生活を振り返る資料(写真や物)を提示する。
第1時	○一人一人のよさを生かすことを目的とした集会の内容について、根拠を明らかにして話し合う。 ○集会の内容や分担を決める。	○一人一人が根拠を明らかにして話し合えるように、「一人一人のよさを生かす」「みんなでできる」等の話し合いの視点を提示する。 ○第2時への意欲を高められるように、話し合いの様子を称賛したり、今後の活動に向けて励ましたりする。
第2時	○計画を基に楽しく集会をする。 ○感想を発表し合い、集会をまとめる。	○集会に積極的に参加できるように、集会のめあてやルール等について確認するよう促す。 ○日常生活に生かそうという意欲をもてるように、一人一人のよさが発揮されたことや計画通りに集会が進められたことを称賛する。
事後	○卒業までの残りの期間を大切に生活する。	○実践の充実感を味わえるように、子どものメッセージや集会の写真を掲示する。
【備考】	・関連-「卒進プロジェクト」	

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 3学期

卒業までのめあてをつくろう		1月(1時間)	
ねらい	自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、3学期にがんばっていききたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分のめあてを決定するとともに一人一人が実行し、最上級生として自らを向上させながら生活する。		
評価規準	(①知・技) 自分の課題を明確にして生活することのよさや必要性を理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 3学期にがんばっていききたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、3学期にがんばっていききたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、卒業までの日を掲示する。	
本時	○3学期の学習や生活の概略をつかみ、卒業までの見通しをもつ。 ○冬休みまでの自分のがんばりを基に、3学期にがんばっていききたいことについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○自分のめあてを決め、めあてカードに書く。	○問題意識を高められるように、卒業に向けてのめあてをもって生活することのよさを助言する。 ○一人一人が根拠を明らかにして話し合えるように、「6年間のまとめができる」「中学生への準備になる」等の話合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりのめあてが考えられた子どもを称賛する。	◇3学期にがんばりたいことを発言したり、めあてを記述したりしている。 <発言・めあてカード①②③>
事後	○めあてを掲示し、めあてに向けて努力する。	○今後の生活の仕方を意識できるように、月ごとに「学校生活の振り返り」を行う時間を設定する。	
【備考】 ・めあてカードを準備しておく。 ・「学校生活の振り返り」を準備する。			

新6年生に引き継ぐこと		1月(1時間)	
ねらい	最上級生として行ってきた取組を新6年生に伝えるよさや必要性を知り、附属小学校での活動を充実させるために新6年生に引き継ぐことについて、根拠を明らかにして話し合い、新6年生に伝えていかなければならないことをまとめて引き継げるようにする。		
評価規準	(①知・技) 最上級生として行ってきた取組を新6年生に伝えるよさや必要性を知り、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 新6年生に引き継ぐことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、新6年生に引き継ぐことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、昨年もらった「新6年生に引き継ぐこと」の内容を掲示する。	
本時	○児童会活動、クラブ活動などの中から、工夫してきた点や課題点を出し合う。 ○工夫点や課題を基に、新6年生に引き継ぐ内容や活動の工夫について、根拠を明らかにして話し合う。 ○グループごとに引き継ぐ内容を考え、検討する。	○問題意識を高められるように、附属小学校のよさを引き継いでいくよさを伝える。 ○一人一人が根拠を明らかにして話し合えるように、「学校をよりよくする」「5年生が6年生になってできる」等の話合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりの内容が考えられた子どもを称賛する。	◇話合いの視点に沿って、根拠を明らかにして自分の考えを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
事後	○児童会旗引き継ぎ式の後に、代表が5年生に手渡す。	○今後の生活の仕方を意識できるように、5年生からのメッセージを紹介する。	
【備考】 ・5学年と連絡を取り、第5学年「附属小のリーダーとして」の実施までに「新6年生に引き継ぐこと」を完成させる。 ・関連-「卒進プロジェクト」			

学級活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 6年 3学期

中学校の生活		2月(1時間)	
ねらい	中学校生活の様子や楽しさを知り、中学校生活でがんばっていききたいことについて、根拠を明らかにして話し合い、自分に合った取組を決定するとともに、新しい生活への期待を胸に生活を送る。		
評価規準	(①知・技) 中学校生活の様子や楽しさを知り、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 中学校生活でがんばっていききたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、中学校生活でがんばっていききたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、中学校の生活について知りたいことや期待していることについてのアンケートを行う。	
本時	○中学校生活の様子を知る。 ○小学校と中学校の違いを基に、中学校で、頑張っていきたいことについて、根拠を明らかにして話し合う。 ○話し合ったことを基に自分が取り組んでいきたいことを決める。	○問題意識を高められるように、中学生から始まる部活動や学習などの楽しさについて伝える。 ○一人一人が根拠をもって話し合えるように、「中学生としてふさわしい」等の話し合いの視点を提示する。 ○中学校生活の不安を取り除けるように、小学校生活と中学校生活の共通点や相違点を例示する。	
事後	○中学校入学に向けて、期待をふくらませて生活する。	○今後の生活の仕方を意識できるように、自分の取組を振り返るプリントを用意する。	
【備考】 ・行事「中学校体験」、英語活動「My Future, My Dream」との関連			

中学につなぐ春休み		3月(1時間)	
ねらい	中学校に進学する心構えをもちながら、春休みを計画的に過ごすことよさや必要性を理解し、春休みがんばりたいことについて根拠を明らかにして話し合い、自分に合ったためあてを決定するとともに一人一人が実行し、充実した春休みを送る。		
評価規準	(①知・技) 春休みを計画的に過ごすことよさや必要性を理解し、自己決定したことを実行している。 (②思・判・表) 春休みがんばりたいことについての課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を踏まえながら自己決定している。 (③主体的態度) 進んで友達と関わりながら、春休みがんばりたいことについて話し合ったり自己決定したことを行ったりしようとしている。		
活動内容	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」	
事前	○本時に話し合う題材を知る。	○本時の題材についての問題意識をもてるように、中学校につなぐための春休みの過ごし方についてのアンケートを行う。	
本時	○これまでの学校生活で、よくできたことやできなかったことを発表し合う。 ○中学校につながついていく春休みの過ごし方について、学習面、生活面から根拠を明らかにして話し合う。 ○春休みのめあてを考え、中学校に進学する準備がしっかりできるような計画を立てる。	○問題意識を高められるように、春休みの過ごし方のよい例や悪い例を紹介する。 ○一人一人が根拠をもって話し合えるように、「中学生への準備になる」等の話し合いの視点を提示する。 ○実践への意欲を高められるように、自分なりの方法が決められた子どもを称賛する。	
事後	○自分のめあてを決め、「〇〇の春休み」に記入する。 ○6年間を振り返り、中学や将来に向けた思いを「キャリアパスポート」に記入する。	○今後の生活の仕方を意識できるように、「〇〇の春休み」に春休み全体の振り返りを記述する欄を設ける。	
【備考】 ・「〇〇の春休み」を準備する。			